花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～

高浜市立吉浜小学校
令和７年６月３日　No.２１

吉浜小学校をよろしくお願いします

よりよい学校を目指し、学校や学級を中心になってリードしていくみなさんを紹介します。

☆児童会会長

６の４　杉浦　　啓さん

児童会役員

５の１　花井　怜彩さん　　５の２　寺島なつなさん　　５の４　梶原ひなのさん
５の４　加藤　朝陽さん
６の１　藤原　俊介さん　　６の２　田村　至誠さん　　６の３　鈴木　心優さん
６の４　堂脇　幸花さん

◇各委員会委員長

福　祉　三浦衣里菜さん　　図　書　鈴木　勇作さん　　放　送　片岡　菜結さん
緑　化　古橋　凛音さん　　美　化　藤平すみれさん　　保　健　杉浦　廉介さん
体　育　神谷　朱音さん　　給　食　赤野　樹希さん　　生　活　原田　悠生さん
掲　示　濱崎　翔生さん

□学級委員

４の１	興梠　　蘭さん	藤吉　桐矢さん	４の２	後藤　　麗さん	廣瀬　彩乃さん
４の３	高橋　一翔さん	山田　乃愛さん	４の４	天草　実那さん	半田　充咲さん
５の１	吉見　快晴さん	林　　小夜さん	５の２	髙島　瑞喜さん	平川　　楓さん
５の３	小池　藍莉さん	横井乃々葉さん	５の４	林　　直樹さん	松田　季子さん
６の１	綾城瑠々愛さん	片岡　菜結さん	６の２	仲井　陽菜さん	野々山恵斗さん
６の３	鈴木　遥乃さん	塙　あさひさん	６の４	長内　千花さん	内藤　百花さん

さて、学級委員の子どもたちの名前を見て「おやっ」と思われた方はおみえでしょうか。おそらく学級2名ずつの学級委員が、「2人とも女子」という学級があることを不思議に思われたのではないでしょうか。以前（本校においては昨年度まで）は、学級男女1名ずつ、合わせて2名の学級委員を決めていました。今年度から学級で男女問わず2名とし、試行しています。

男女共同参画社会基本法が施行されて以降、「男女混合名簿」についての認知が広がり、導入が進んできました。本校においては、令和6年度から「男女混合名簿」を導入してきました。これは、男女別だと習慣的に男子が先になるので、男子が先、女子は次ということが多くなります。性別によって後先が決まるのは好ましくありません。かといって女子を先にしても同じことです。男女平等を教えるためには、性によって順位をつけない混合名簿がふさわしいとの考えです。子どもたちが「性の多様性」を自然に受け入れ、「自分らしく」、「個」を大切に育て、誰に対しても公平に接し、互いを一人の人間として尊重し合う態度を育てたいと考えています。

私たちは知らず知らずのうちに「男子はこう、女子はこう」と、無意識に分けてみる見方が身に付いています。このような固定観念をなくし、子どもたち一人一人の個性を伸ばす上でも、混合名簿や今回の男女問わない学級2名の学級委員は役に立つのではと思っています。もちろんこういった仕組みを整えたからといって子どもたちが変わっていくわけではありません。教員や周りの大人たちがあらゆる場面で、人権教育の視点をもって子どもたちと向き合っていく必要があると考えています。

１年生が学校探検をしています

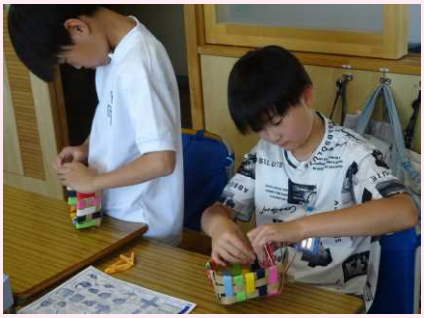
１年生が特別教室や校長室、職員室、放送室などを巡る「学校探検」をしています。初めて見るものもたくさんあり、目を輝かせて見ていました。校長室では、「校長先生は一人なのに何でこんなにたくさんの椅子（ソファー）があるのですか」と話してくれた子もいました。たくさん発見した学校探検になりました。

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～

高浜市立吉浜小学校
令和７年６月６日　No.２２

作品いろいろ



図画工作の授業で、子どもたちが楽しそうに作品を作っています。この日は3年生が短冊状の紙を編み込んで器のようなものを作っていました。色の組み合わせを考えて作ったかご、中に小さなボールを入れたボールなど、子どもたちなりに考えていました。こうして仕上げた自分の作品はやはり見て欲しくて仕方がないようで、たくさんの作品を見せてもらいました。「自分の作品を見て欲しい」と思える作品ができあがっていることを大変嬉しく思います。

そして、今年度も掲示委員会が職員室前の黒板にイラストを描いてくれています。6月分はまだ作成中ですが、途中の様子を写真に撮りました。吉浜小学校を訪れる方は2階の職員室や校長室に上がっていただくのですが、ちょうど2階への階段を登り切った正面にこの黒板があります。ここは、「見るつもりはなくても目に入る」という素晴らしい場所です。黒板イラストは、本校の子どもたちや職員だけでなく、学校に来ていただいた方からも好評です。今年度もどんな黒板イラストが描かれるのか楽しみです。来校時はぜひ見てください。掲示委員会のみなさん、よろしくお願いします。

（＊3年生以外の作品も写真に撮らせてもらいました）

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～

高浜市立吉浜小学校
令和7年6月11日 No.23

東海地方も梅雨入りしました

今週に入り、雨の日が続いています。子どもたちは傘をさして登校しています。中にはカッパを着てくる子や長靴を履いてくる子もいます。それぞれが考えて自分にぴったりな方法で登校しています。

そして、差してきた傘をどうするかです。上の写真を見てください。どの傘もきちんと束ねて傘立てに立ててあります。傘立てにある傘が束ねてなかったとするならば、後から来た子はきっと立てにくい、立てられないということになるでしょう。当たり前のことですが子どもたちはこのような配慮ができています。差してきた傘を束ねるにはいくら水滴を払い落としたとはいえ手が濡れることになります。しかし、子どもたちは迷うことなく束ねています。

さらに、傘を束ねる場所ですが、下駄箱や傘立てのある屋内で束ねている子はいません。傘の水滴を屋内で払うとどうなるか、そこら中に飛び散るとか、人にかかることがあってはいけないと思っているのでしょう。屋内への扉の前で束ねたり、中には正門を通過したら歩きながら束ね始める子もいます。さすがにと思い、「ここで束ねなくていいんだよ」と声をかけるのですが、笑顔で、「大丈夫です」などと答えてくれます。混み合った中では、水滴が人にかからないように控えめに落としている様子も見られます。

「束ねて立てる」ということは担任はじめ教員が指導をしていると思いますが、束ねる場所など指導していないのではないかと思います。しかし、「こうするとよいのでは」と自ら考え、実行している子どもたちは素晴らしいです。隣の傘立てに傘を立てる上級生の姿を目にしているということも、子どもたちを動かしているように感じます。

雨ばかりで、気分もすっきりしない日々が続きそうですが、子どもたちの行動をみて気分は晴れ晴れとした1日のスタートでした。帰宅した子どもたちの傘はどうなっているでしょうか。見てあげてください、そして、褒めてあげて欲しいと思っています。

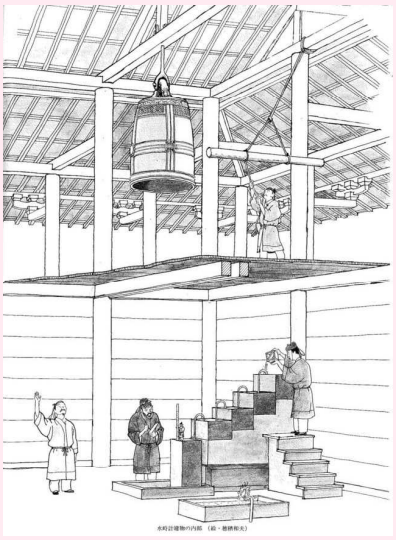
昨日（6月10日）は「時の記念日」です（タイムリーでなくすみません）

「時間の大切さ」に注目するきっかけとなった記念日が「時の記念日」です。学校でも時間を大切にして生活をしています。チャイムが着席やチャイム着席号令など、子どもたちも意識してよくがんばっています。

小学校の授業。1時間の授業は45分。仮にチャイムが着席・号令ができず、なんだかんだで5分ロスしたとします。45分のうちの5分、つまり9分の1が失われたことになります。そして、これを義務教育の9年間続けたとするならば、9年間の9分の1、なんとほぼ1年分を失うこと（厳密に言えば中学校の1時間は50分ですから正しくはありませんが）になります。こう考えると、「時間の大切さ」を実感できるのではないでしょうか。「時の記念日」は過ぎてしまいましたが、「時間について」ご家庭でも話題にしてみてください。

日本で「時計」を用いて時を正確に測り始めたことにちなんで六月十日が「時の記念日」とされてました。

日本書紀には、今から約千三百年前、六百七十一年四月二十五日に漏刻（ろうこく）を置き、時を知らせる鐘鼓が鳴らされたという記述があります。この日付を今の暦に当てはめると六月十日になることから、この日が時の記念日に制定されました。



※漏刻
水時計の一種で、中国で発明され、日本に伝わりました。いくつかの水槽が細い管でつながっていて、水が順番に伝わることにより、一番下の水そうの水面が上がる様子を目盛りで読みとって時刻をはかります。
（右図参照：近江神宮HPより）

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～

高浜市立吉浜小学校
令和7年6月13日 №24

学校関係者評価委員会

高浜市内の小・中学校では、各学校ごとに学校関係者評価委員会を組織し、学校、家庭、地域が三者一体となって協働して学校づくりが展開されるように、委員の皆さんからご指導・ご助言をいただきながら学校運営の改善を図っています。

学校の取組は、子どもたちの様子を見てもらうことが一番だと考えています。子どもたちの姿や様子から学校の取組が見えてこなければなりません。そんな意味で、学校関係者評価委員の皆さんに本校の子どもたちや教員の様子を見ていただけることを嬉しく思います。

この日は、学校側から、学校経営方針に基づき、令和７年度の取組について説明をさせていただきました。その後、全学級、全教室の授業の様子をみていただき、委員の皆さんからご意見やご感想をいただきました。以下に主な内容について紹介します。

【黒野盛聖 様　元吉浜小学校長】

工事が進行中で、子どもたちにとってもなかなか落ち着けない環境にあるのかと思ったが、授業を見て子どもたちは穏やかににこやかに学んでおり、影響はないと感じた。授業は、「授業というバスに乗る」ことから始まり、バスに乗っていなければバスは出発しない、授業は始まらない。みんなバスに乗っていた。令和９年度に研究発表があると聞いているが、子どもたちの様子を見て今年でもいいんじゃないかと感じた。本日もらった研究の資料から取り組んでいく方向性がよく分かった。話し合うベース、昔から大切にしてきたこと、根本はクラスの雰囲気がどうかということに尽きる。教員の学級経営がすべてだが、よい雰囲気ができつつあると感じている。工事も今年度いっぱい。北校舎の階段は昔は薄暗くちょっと…といった様子だったが、工事の手が入り明るくよい感じになっていた。２月、校舎の改修は終わっているようなので、子どもたちの成長とともにどんな雰囲気になっているのか楽しみにしている。

【横井光義 様　吉浜まちづくり協議会 会長】

６年生、卒業の年に仮設校舎で少し申し訳ないという気持ちになってしまったが、笑顔で学んでいた。私は吉浜まちづくり協議会の会長だが、吉浜小の子どもたちには吉浜地区にいて楽しいと思いながら大きくなって欲しいと思っている。私が常々思っていることがあって、まち協が、「こうやろう、こういうことをやろうと学校に押しつけていないか」ということがいつも気になっている。そういうやり方は間違っている。今日も先生方が汗を流しながら子どもたちと向き合っている姿を見ていると、何かまち協が手伝えることがあれば喜んで手伝いたいという気持ちになる。将来、吉浜地区を支える子どもたちを育てるということで協力したいと思っている。押しつけにならないようにいつも心に留めている。「こんなことを手伝ってくれると嬉しい、こういったことを教えて欲しい」という学校からの本当の声を聞かせて欲しいと思っている。働き方改革、私が若い頃も言われていたことであるが、先生方、休めるときはしっかり休んでください。

【内藤尚仁 様　吉浜まちづくり協議会 子どもグループリーダー】

まち協子どもグループで、「子どものやってみたいことを考える事業」という取組があり、この事業を考えるときに、昨年度、児童会の子どもたちを中心に企画・運営してもらい、「クイズおよびスポーツ大会」を行った。４回ほど打ち合わせを行い、１月に実施した。打ち合わせでは、最初に、「今日はここまで決めて欲しい」と伝えておくと、子どもたちは初めはああだこうだ言いながらわいわい話しているが、残り２０分くらいになってくると、自分たちで、「まとめ」に入っていき、決定していた。大人はなかなかまとまらず結論が出ないことが多々あるのに、子どもたちはすばらしい。学校での日頃の授業や自主的な取組の成果だろうと思ってみていた。まち協での夏休みの講座、今年もやりますが、この中に、「鬼瓦づくり」がある。これは一昨年度の児童会の子たちから、「地域の産業を知りたいので鬼瓦づくりを」という意見をもらい、取り入れたもので去年から実施している。会長の言うとおり、押しつけではなく、子どもたちの声を聞きながらやっていきたい。今日は、工事がどんどん進んできて、安心できる学校になっていくことを感じ、嬉しく思う。

【山下聖皓 様　高浜中学校 校務主任】

吉浜小学校の子どもたち、率直にかわいい子たちだと感じた。落ち着いて過ごしていた。中学校で働いているので、特にそう感じた。教室を回りながらトイレを見るとスリッパが揃えられていた。工事が進み、きれいな教室、その前面に掲示物が意図的にないのだろうと思うが、これも現代的な配慮の一つだと感じた。LGBT配慮で「～さん」と呼ぶこと、タブレットのスクラッチ、プログラミングに取り組んでいること、その他、今抱える課題への対応など、考えられる配慮やケアが行き届いていることなどが目についた。教室を見ると、外国籍の子どもが多く、でもちゃんと受け入れられていていいなと思った。小学校で落ち着いて学校生活を送っているので、こういった様子を中

学校につなげ、そしてレベルアップしていきたいと思う。どうつなぐかは学校に戻ってみんなと考えたい。

【新実貴子 様　話輪和の会 代表】
　子どもたちはとても元気だった。活気がある。１年生もしっかり挙手して、意見を発表していて感心した。今の世の中、すべてが速く進んでしまっている気がしている。遊びでも生活でも。そんな中で、ちょっと立ち止まって自分を振り返ってみよう、みんなで話し合ってみようという時間をもつことはすごく大事だと感じる。クラスの掲示も、自分の思いや声を言葉にすることは難しいと思うけど、文字にしてみんなで見る、これはすてきな取組だと感じた。私は読み聞かせのために教室に入るが、今朝、ある学級でこんなことがあった。その学級の黒板には、「今日は読み聞かせがあるよ。８時２０分に机を下げてね」と書いてあった。私が時間になるのを廊下で待っていると、「机を下げよう」と声があがったが、「まだ８時２０分じゃない」「８時２０分になったら下げるんだよ」という子がいた。それに対して、「いや、８時２０分に読み聞かせが始まらないとダメじゃないの」と言う子もいて、子どもたちが相談を始めた。そして、みんなが時間前に机を下げ始め、読み聞かせは８時２０分から始めることができた。これも自ら考え、自主的に動くという学校の取組が根付いているのだと感じた。学年が上がるにつれて、読み聞かせの日は先生がいなくても子どもたちが自ら動いてくれ、１年生は６年生の子たちを誘導して机を下げさせている。こんな姿が四季を通じて見られることも読み聞かせの楽しみです。読み聞かせの仲間から聞いた話。庭で水をまいていたら２、３年生くらいの子がこっちを見ていた。そして、「読み聞かせのおばさんですか」と声をかけてくれた。嬉しく励みになる一言だった。押しつけでなく寄り添っていけるボランティアでありたい。今年、外国籍の子のお母さんで読み聞かせに入ってくださった方もみえる。今はいろいろな考え方をされる方がみえる。そういった声に私自身まず耳を傾けながら子どもたちのために頑張っていきたい。子どもたちの姿、すてきでした。

【神谷幾子 様　吉浜北部保育園 園長】
　学校だより「花咲く明日を」による情報発信を見て、幼稚園でも保育園でもドキュメンテーションという形で保護者の方に子どもの活動や遊んでいる姿、生活の様子などを配信している。このように配信することで子どもたちのやっていることが分かる、保護者からの理解も得られる。そして、写真を取り入れるなど、分かりやすいと思った。研究主題の「仲間と話し合うことで学びを深める子の育成」について、話し合うというと今日の授業ではみんなで話し合っている場面、グループで話し合う場面があった。園ではどうだろうと考えると、５歳の子なら４，５人とか、このくらいの人数なら話し合いができるかとか、いろいろ考えながら見ていました。幼児教育で大切にしてきていることが学校につながって大きなまとまりでも話し合うことができるようになるのだと感じた。そして、保育園には１，２歳の子がいて、話し合うことは無理だが、「見る、聞く、知る」はできている。特に、「見る」はすごくて、人を認識したり、触ってみて分かる、この人は安心できる人なんだ、この人はちょっと違うとか、見たり聞いたりしながらいろいろなことを学んでいるなと思っている。このような積み重ねが学校でも生きるようにきちんと保育していかなければと思っている。

【磯貝かをり 様　吉浜幼稚園長】
　この何週間の間、何回も吉浜小学校に来て、１，２年生の様子を見せてもらっている。卒園した子たちは皆、元気そうで１，２年生は顔も名前も分かる。私の教えた子たちは５年生までだが、３年生以上は大きくなっていて名札を見ないと…ということもあったが。道徳の授業で机を動かして、顔を見合って話し合いをしているところを見せてもらった。園でも５歳児は輪になって、感じたことを伝え合う活動をしている。感じたことを言葉にすることに力を入れている。感じたこと、思ったことを言葉にして伝え合い、互いのことを知っていくという取組は学校も園も同じだと感じた。幼児教育ではまず感じることが大事で、遊びの中では、例えば、どろんこ遊びをする。触ってみて最初はどろが気持ち悪いが、触っているうちにだんだん気持ちよくなってくる。このように感じないと相手の痛みも分からない。相手がどう感じるかは自分が感じないと分からないというところを大事にしている。そして、感じるところから楽しい、もっとやりたいにつなげようとしている。学校での主体的な姿も幼児教育からつながっているのだなと感じ、ここにつながるようにやっていきたい。

※評価委員　山根宏昭 様（令和５年度PTA会長）には学校関係者評価委員会委員長として会
　の司会・進行をしていただきました。
※評価委員　内藤俊宏 様（令和６年度PTA会長）は都合により欠席です。

　委員の皆様のお話を伺い、子どもは学校だけで育てるのではなく、幼稚園・保育園、地域、そして家庭が手を取り合って育てていくものだということをあらためて感じました。本日いただきましたご意見は今後の学校運営に生かしてまいります。ありがとうございました。

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～

高浜市立吉浜小学校
令和7年6月18日 №25

子育て真っ最中

北校舎と南校舎をつなぐ渡り廊下の天井裏に上の写真の鳥（何という鳥なのか知っている方がみえましたら教えてください）が巣を作り、雛を育てています。雛の姿は確認できないのですが、元気な鳴き声が響いています。親鳥は渡りを人が通ると少し離れたところにとまって、雛をあやすように鳴き、人が去ると巣があると思われる間に入っていきます。先日、偶然、親鳥が虫のようなものをくわえて、渡りから人がいなくなるのを待っている様子を目撃し、写真に収めることができました。雛に与える餌なのでしょう。

こんな様子を見ながら、人間の子どももこの雛と同じように、いやそれ以上に大切に育てられていることを感じます。動物の子育てと大きく違うところ、人間の子育ては、愛情をたっぷりと注ぎつつ、でも時には叱らなければならないこともある、ということです。子どもたちが将来、自立した人間として自信をもって人生を歩んでいくことができるように。こんなことを思いながら鳥の子育てを見ていました。